

校友会長にえらばれて

山口 泰 弘

今般思いがけなく校友会長の重責をお引受けすることとなったのですが、学園問題などなかなかむずかしい問題の多い今日、果して全国十萬校友諸氏の御期待にそい校友会の充分なる運営が推進できるかはなほ危惧にたえない次第ですが、幸い学内外諸兄姉方の御協力とご支援によりこの重責の果し得られますことを心から念じてやまない次第です。

幸いにして私は、ここ数年来校友会の理事として、また学園の理事として、いささかその運営に関与して参りましたが、ことに法人においては両三年来担当理事の一人として、学園運営の枢議にも多少参画して参りました関係上、常々校友会のあるべき姿また学園との協力体制は、いかにあるべきかなどに関し、多少の考え方を持っておりましてので、会長をお引受けしたことに依り特に新しい抱負といったようなことはありませんが、只今後は会長という立場において、従来考えて参りましたことを、極力推進することにより、

新しい意欲に満ちた校友会の発展を期したいと思っております。私が平素から機会あるごとに、諸氏に訴えてまいりましたことは、私学においては校友の存在意義は非常に大きいとともに、校友の存在は私学運営の重要な支えの一つであるということですが、殊に今日のような情況の下では、一層その感を深くする次第で、全国校友諸氏の従来に増しての母校への関心を強く要請する次第です。

昨年夏のことだったかと思いますが、アーモスト館長のケーリさんが一カ月のアメリカ滞在から帰国されたその時のお話に、当時の学園問題などいろいろとアメリカの実情をお話の末、今日の日本の学園紛争解決についても校友はもつと主要な役割を果たすべきであって、学園と校友会が全然別であつてはならないと、強くいっておられましたし、また慶応の長沢護大学長も学園問題解決には三田会、父兄会などの協力を強く期待するような意向を漏らしていられましたことを記憶します

が、私はこれが私学のあるべき姿ではないかと今日特にその感を深くしている次第です。そんなわけで、私は常々学園の発展は直接校友会の拡大発展であり、また校友会の発展充実はその自体学園の発展につながるものと固く信じております。両者はお互いにその主体性をはっきりさせながら、常々深い信頼感の上に立つて有機的なつながりを保つべきだと思っております。

私は今回の会長就任にあたり、かねての考えであった学園・校友会両者の緊密にしてかつ温い有機的な関係の確立を、心より期待しますとともに、さらに一段と力を傾けたいと思ひますことは、全国十萬校友諸氏に母校に對する関心を訴えるとともに一切のセクト主義を排しその心の結集を図ることであります。私は校友会の集りには一人でも多くの校友が集まることに意義があり、こうして全国校友がお互縦横の接近を密にし、その懇親を深めることにより、お互社会活動の上に何らかのプラスをもたらすとともに、その力の結集がまた何かの形で母校の発展にもつながるものであることを信じ諸氏にその積極的な参加を常々要請している次第です。(大10大経卒)